

「こどもたちを中心とした地域づくり」に、最も大事なものは？

別府市関係施設配置図

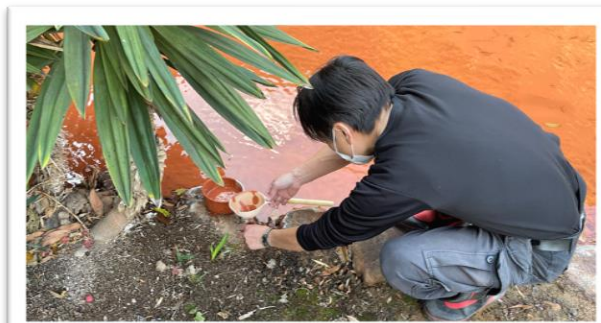


- ① 私たち研究会の「取り組み」から、
- ② 協力をいただいている地域づくり担い手の「ご意見」から、
検証

「地域の色・自分の色」研究会

照山 龍治

2020年・2021年「こども色博物館」設置施設(血の池地獄)



「血の池地獄の責任者」の意見

- ①「身近にある地域資源を、教材として、学校教育に活用」という研究会の考え方、地域の中で生きてきた血の池地獄として賛同。
- ②地域の将来を担う子どもたちのために、血の池地獄の泥を教材に活用、地域と一緒に生きてきた血の池地獄は、提供することが「義務」だ。
- ③血の池地獄の資源を、観光だけでなく、将来、血の池地獄を支えてくれる子どもたちのために活用できることは、とても意義のあること。
この「色」を通した取り組みは、教育だけでなく、地域振興としても期待できると思う。私としては、楽しみであり、これからも協力していきたい。

2021年「こども色博物館」設置施設(鬼石坊主地獄)



「鬼石坊主地獄の責任者」の意見

「色」を切っ掛けとして、地域の自然に関心を持ち、色の仕組みを調べ、泥を使って絵を描く。

このように地元の資源を使い、実体験をして学ぶことは、子どもにとって、とても良いことだ。

私は、この取り組みが、「地元の良さを見直すきっかけになればいいな」と思っている。

その他協力施設

教育資源の提供

シチトウイ農家



海地獄



いちのいで会館



塚原温泉



弥生のムラ



別府白土(伽藍岳)

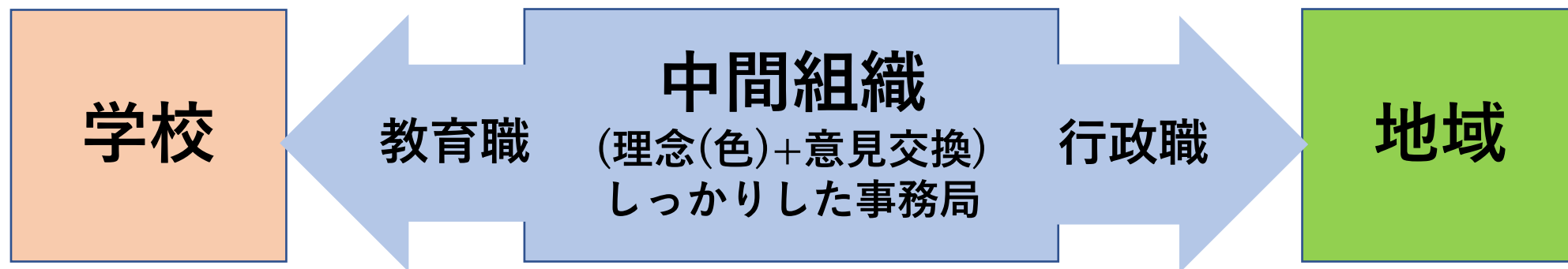


その他施設の意見 「持てる資源を地域の未来を担う子どもたちの教育に提供することは私たちの喜び」。でも、「持てる資源が教育に使えるのか、わからない」「学校など教育施設とのつながりがない」など

「こどもたちを中心とした地域づくり」に、「仲介」、「橋渡し」、「つなぎ」の役割を果たす仕組みづくりが求められている。

学校と地域を結ぶ中間組織として(例)

私たち研究会のイメージ



理念⇒「色」という視点から、「ふるさとのたからもの」を掘り起こし、教育や地域づくりに活用

中間組織は、界面活性剤と触媒としての役割が大事

※文献「色から始まる探究学習」から引用

